

当院のさまざまな診療科における最前線の取り組みや、それぞれの科について、日々治療にあたっている医師がわかりやすくご紹介します。

先端医療

外科

腹腔鏡下手術の世界

外科 医長
伊藤 契

残るのは3ヶ所の小さな傷だけ

それは、どんな世界でしょうか。おへその上から入れられた筒の中、トンネルを抜けると、そこはまだ暗くて視界は開けてきません。炭酸ガスが注入されて、ライトがともると、見えてきます。

その空間は、おなかの中です。肝臓が見えてきます。その下には、袋状の臓器が見えます。特に、周囲との癒着もないようです。予定通りの手術となりそうです。新たに3本の筒状のポートが挿入留置されると、おもむろに手術器具が入ってきて、いよいよ今日の手術の始まりです。

今日の目的臓器は、^{たんのう}胆嚢です。胆嚢結石が存在する胆嚢の摘出手術です。胆嚢が頭側に持ち上げられて、表面に切開が加えられて…。手術は順調に進んで、胆嚢は切除されます。ここまで、1時間と30分かかるか、かからないかです。胆嚢を体の外へ取り出せば、手術は最終段階です。どこから？胆嚢は、おへその上の筒を取り除いた穴から体の外へ取り出されて、一件落着。おなかの上には、おへそ他に3ヶ所の小さな傷が残るだけで終わります。腹腔鏡下胆嚢摘出術でした。

当科では、年間140～150例の手術が行われています。10年と少し前までは、皆さん結構大きくおなかを切られていました。今は、違います。これが腹腔鏡下手術の世界です。

王監督も受けた腹腔鏡下手術

お腹を大きく切らなくても、同じ手術が小さな傷でできるとすれば、どちらの手術を希望されますか？今、その世界が可能となってきているのです。

たとえば、今の胆嚢結石に対する胆嚢摘出術、早期胃がんに対する胃切除術、胃粘膜下腫瘍の手術、結腸がんに対する結腸切除術、脾臓、副腎など、多

くの手術が腹腔鏡下手術で可能となってきているのです。近いところでは、皆さんは、王貞治監督が腹腔鏡下の手術を受けられたのをご存じでしょう。王監督は、胃を全摘する手術を腹腔鏡下で受けたのです。どこから取り出したのか？それは、少しばかりおなかを切っています。5～6cmでしょう。でも、それでできてしまうのです。

器械の進歩、新しい発想、技術の進歩、そして腹腔鏡下手術のパイオニアたちの努力のもとに、その世界は今、身近なものとなりました。20世紀終わり(1990年代)からの外科手術のエポックメイキングな出来事です。

その世界は、二次元の世界、手が届かない(手を入れない)触れない、器械を駆使する世界です。今までの、手で触ってガーゼで拭いてといった、おなかを開ける開腹手術とは違って、口出しはできるが手が出せない世界でもあります。

その世界に要求されるのは、一に慎重さ、二に粘り強い対処、そしてそれを裏付ける確実な技術です。その結果が、患者さんに還元できるのであれば、大いに奨められるべき世界です。私たちは、その世界を提供しています。



各科紹介

予防医学センター

病気を防いで健康な毎日を

予防医学センター長
浦部 晶夫

「予防医学センター」の役割

私たちが元気に過ごすためには、日頃の健康状態をチェックして病気になる前に予防すること、そして、病気を早期に発見して重症になる前に治すことが大切です。

予防医学センターでは、皆さんの健康状態を把握して病気を未然に防ぐための活動として、人間ドックと検診を行っています。緑の下の力持ちでもあり、これからの医療の中でますます重要になる分野でもあります。

「予防医学センター」が目指すもの

わが国も高齢化社会を迎え、一人一人の国民が歳をとっても元気に生活することが大切になっています。そのためには、高血圧、高脂血症、糖尿病のような生活習慣病を予防すること、がんを早期に発見することが重要です。

当センターでは快適な人間ドックを実践して、生活習慣病の予防とがんの早期発見を目的として、多くの方々の健康維持に役立つよう日々努力しています。

「人間ドック」の内容

人間ドックには1日コースと2日コースがありますが、オプション検査を追加することもできます。

胃カメラ検査では、鼻から挿入する細いカメラを使ったり、鎮静剤を事前に用いる方法などもご希望に応じて行っています。受付スタッフをはじめ

め予防医学センター職員が笑顔でお待ちしております。

受検者数は、平成17年度は約7,500人でしたが、平成18年度は、約9,000人になりそうです。また平成19年度には、コース内容もバラエティ豊かなものにする予定です。



予防医学センターの職員一同



笑顔で迎える受付スタッフ



広々としたセンター内のフロア